

- 国語科の授業のアイデアを広げたい!
- 具体的な実践事例を知りたい!
- 授業の導入に使える小話はないだろうか?

そんな先生方のために、秀学社国語科通信シリーズをスタートします。

## 「振り返り」を活用した Evaluationとしての 評価と授業づくり

北海道教育大学附属札幌中学校

鈴木 真之介

### 「振り返り」を活用した評価 (Evaluation)

前回まで、学習状況を適切に把握する「Assessment」としての「評価」についても考えてきました。その場で見る教師の「目」も大切ですが、生徒自身による「振り返り」を活用した「みどり」を組み合わせることで、より明確に、生徒の学習状況を捉えることができます。

「Assessmentを目的とした「振り返り」は、単元を通して蓄積していくことでEvaluationとしての評価、特に「主体的に学習に取り組む態度」をどのように評価するかという点において、大きなヒントを与えてくれます。

「挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向<sup>※</sup>」で評価するような誤解が指摘されて久しいこの「主体的に」の観点ですが、本来的には粘り強い取組を行おうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面を把握する必要があります。この際の一つの材料として「振り返り」を用いて考えてみます。

※国立教育政策研究所教育課程研究センター(2019)  
『学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編』P.9

左下の記述例は、話し合い(ディスカッション)の単元の中盤あたりでの実際の記述です。この生徒は、前回の学習で「グループの中で意見が食い違った時に、どう決めていったらいいかわからない。合意形成ではなく議決のようになってしまおう。」という記述をしていました。

このような「できなかった」「分からなかった」ことに対してどのように克服を試みているのかについて、Assessmentとしての「振り返り」を蓄積し、その変容を捉えていくことでEvaluationとしての「評価」につなげていく道筋が見えてきます。

もちろん、この場合の「評価」は一授業ごとに行う必要はありません。単元全体を通して、学習者の取り組みの様子全体が俯瞰できる時期に行うことが効果的です。

食い違ってしまった意見をまとめるときに、それぞれの案を壊さないような新しい案を考えて「例えば、」のように、違う視点からの意見を出せると、全員が納得した案が出来上がっていて進みも早くなりました。

企画の内容がより良くするにはどのような話し合いをすれば良いのか、を考えていきたいです。

## 「振り返り」を活かすための授業づくり

「」まで、「振り返り」の在り方を中心としながらAssessmentとしての「評価」やEvaluationとしての「評価」について、区別しながら考えてきました。このどちらにも効果的に進めていくためには、授業そのものの在り方も考えていく必要があります。教師が一方的に伝達するだけの学習や指示したことに取り組むだけの学習、プリントの穴埋めに終始するような学習では、そもそも振り返る必然性がないためです。前回も触れましたが、国語科の学習は、その抽象度の高さのために、「結局、何ができるようになったか」「どんな力が身に付いたのか」が曖昧になりがちです。だからこそ、まずは目指すゴールを教師・生徒の双方が共通理解を深めておく必要があります。その上で、どのような学習活動を通して学んでいくかという「学び方」を選んだり、探究的な課題を設定してその解決を目指すことで力が身に付いたりするような授業をつくらうとする意識が大切です。

一方で、「大切だ」とは分かっている、実際の授業として具体化することが難しいことも多々あります。同僚性を発揮しながら教え合うことも大切ですが、ここでは、ワークなどの問題から授業づくりのヒントを考えてみます。

左の問題を見てみます。もちろん、授業の中で「初めと終わりの五字を書き抜こう」という指示を出すことはないでしょう。そこで、「この問題を抽象化すると、筆者の主張(意見)とそれを支える理由(根拠)との関係を捉える力が問われていますので、「意見と根拠の関係」(中学校第二学年)の知識を活用する学習活動を授業の中で展開することが想定されます。さらに、筆者の述べ方について「評価する」(この場合は価値判断を下すこと)までを学習のねらいとして定めておくと、「筆者は、主張の展開をどのように試みているか?」という探究的な課題が見えてきます。そして、課題解決のために何をどのように考えるか、様々な視点からシミュレーションしてみることが大事な教材研究です。

## 1 筆者は、45㉞「ドラミングに対する誤解」が広まった理由をどのように考えていますか。理由を述べた部分を四十字以内で探し、

初めと終わりの五字を書き抜きなさい。



## 【編集部がつぶやき】

こんなもの要らない!?

回転すし店での悪ふざけの様子を投稿したり、強盗事件の背景に「闇バイト」募集があったりするなど、SNSの影の側面が目立つ。その最たるものは、陰湿で悪意に満ちた「誹謗・中傷」ではないか。傷ついた人を、毒を塗った心無い言葉の槍で突き刺す卑劣な行為。これ一つだけをもってしてもSNSの弊害は極めて大きいと思う。ニュースや新聞報道に接するたび、「こんなもの要らない」と思ってしまう。…しかし、おそらくSNSそのものに罪はあるまい。その利便性や恩恵に浴している人は大勢いるのだ。人は時として悪意を持つ存在だということがいちばんの問題なのだろう。(編集部：丸山)

秀学社 国語科 LINE公式アカウント

## コクカフェ

▼役立つ情報を配信します。  
ぜひご登録ください。